

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">譚 昕</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成24年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">テキスト言語学の観点からみた中国語におけるテキストの結束性 一二つの非明示的表現を中心に一</p>	<p>本論文は、現代中国語におけるテキストの結束性について、二つの非明示的表現を取り上げ、考察したものである。第1章で、論文の概要と構成を述べた後、第2章で、理論的枠組みとして、Halliday and Hasan (1976)、Halliday (1994)を始めとする結束性理論を使うことを述べている。第3章で中国語のゼロ照応についての先行研究の紹介と検証を行い、三人称代名詞とゼロ照応の比較を、第4章で日本語のゼロ照応との比較を行い、第5章と第6章では、もう一つの非明示的表現として中国語の“X的\emptyset”形式を取り上げて考察し、第7章で論文の内容を総括している。</p> <p>具体的な考察を行っている第3章から第6章は、本論文の中心的考察であり、独自性の高い部分である。まず、中国語のゼロ照応、即ち、先行文脈にすでにある表現に対し、音形を持たないゼロ形式で言及する形式について、小説から非明示的及び明示的照応のデータを収集し、それらの結束性の機能について比較した。その結果、内容的結束性の弱い文脈では、ゼロ照応ではなく、三人称代名詞がテキストの結束性を強めるために用いられることを新たに指摘した。次に、日本語のゼロ照応との比較を行い、登場人物が少なく指示の曖昧性が生じにくい場合は、中国語ではゼロ照応になりやすいが、日本語では登場人物の数に関わらずゼロ照応が使われること、また、明示的指示表現としては、中国語は三人称代名詞を、日本語は名詞句表現を好む傾向を指摘した。最後に、“X的\emptyset”形式の構造をめぐる論争を概観し、この形式についてのテキスト機能の研究が不足していることを指摘した後、“X的\emptyset”が実際に使われる文脈の分析から、この形式が代用機能を持ち、テキストの結束性を強める働きをしていることを明らかにし、さらに、例示の機能を果たしていることから、結束性を表す手段として例示も考えられると提案している。</p> <p>以上のように、本論文は中国語のゼロ照応及び“X的\emptyset”形式について、結束性から新しい観点を与えると同時に、結束性の概念の現れ方にも新しい提言を行っている。</p>
審査委員	(主査) 准教授 伊藤 さとみ	
	教授 伊藤 美重子	
	教授 和田 英信	
	准教授 野口 徹	
	助教 本林 響子	